教育実践部門

令和８年１１月１４日
佐渡市立八幡小学校
杉本　大樹（令和３年度）

既習の表現を活用してやりとりを続けられる児童の育成

～表現獲得のための ICT 活用とルーブリックの共同作成を通して～

１　主張

本実践は、「既習の表現を活用してやりとりを続けられる児童の育成」を目指した。学習指導要領外国語科の目標に「自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」と明記されている。基本的な表現を用いて質問したり、答えたりしてやり取りを続けるためには相手への反応や表現の獲得、その表現を使った会話の練習や言語活動が必要である。教科書は、各ページに基本文があり、「Activity」（基本文を使ってやり取りをする部分）でその基本文を使ってインタビュー活動を行う構成になっている。しかしその活動だけでは、終始質問して答えるだけになってしまい、やり取りを続けようという意識は生まれなかった。

そこで、その場に応じてやり取りを続けられるようにするために、言語活動の設定の仕方を工夫した単元を構想し、本実践を行った。

２　手だて

（1）やり取りを続けることを目的とした表現の獲得の支援

まず、児童と ALT との会話をタブレット端末で撮影する。（１回目）その後撮影したやり取りの様子を振り返らせる。その時にどんなことを相手に言いたかったのか、どんなことを言えばやり取りを続けることができそうか考えさせる。その後、児童の「言いたかったこと」をもとに、教師と一緒に相手に伝わる表現を作り上げる。そして、習得したい表現を練習することできるような動画を ALT が撮影し、児童一人一人に配信する。その動画を見て、児童が個人で練習する時間をとる。その後、子ども同士でのペア活動を取り入れる。

（2）児童と作るルーブリックの設定

単元の第１時間目でこの学習の目的や場面、状況を設定し、その中で単元のゴールに達成するために基準となるルーブリックを児童と共に作成する。毎回の授業で提示して目標を明確にした上で会話の練習をする。このことで目指すべき姿に向かって練習をすることに期待できる。

３　授業の実際（令和８年１月八幡小６年生１１名）

（１）　単元名：「Blue Sky 2 Unit6」『My favorite memory is the school trip』全８時間

（２）　単元計画

1	単元のゴール確認と学習計画の設定 ルーブリックの共同作成	5	やり取りを続けるために表現の練習③
2	やり取りを続けるための表現の気付き （ALT との会話）	6	やり取りを続けるために表現の練習④
3	やり取りを続けるために表現の練習①	7	やり取りを続けるために表現の練習⑤
4	やり取りを続けるために表現の練習②	8	SEA３名との交流会（SEA との会話）

（３）実践の概要

① 単元のゴール確認と学習計画の設定（１時間目）

佐渡市内の小中学生を対象にスポーツを教えているスポーツ国際交流員(SEA)が、他の学校には無い行事が多い八幡小学校のことを知り、「八幡小学校の子どもたちと会ってお話をしたい。」と言っていることを伝え、SEA からの動画のメッセージを見せた。そこから単元のゴールを「思い出の行事について SEA とやり取りができる」と設定した。

SEA とやり取りする時は、できるだけ長く会話を続けることが、自分の経験や事実、気持ちなどをより詳しく伝え、相手との会話を豊かにすることにつながると共通理解を図った。その上で、毎回の授業で行う small talk の目標を明確にするため、児童と一緒にルーブリックを作成した。

ルーブリックを作成する際には担任と ALT による３つのパターンの動画（Bad モデル２つと Good モデル１つ）を見せた。

モデル A(Bad)・・・質問やあいづち・リアクションをせず、やり取りとして不自然な会話。
モデル B(Bad)・・・内容の異なる質問を複数する会話。
モデル C(Good)・・・あいづちやリアクションを行い、一つの内容について深める質問をする会話。

これらの動画を見せた後、上手なやりとりの条件として次の３つが挙がった。

・質問ができること
・気持ちや感想・理由を話せること
・あいづちやリアクションができること

これらのことから右記のルーブリックを作成し、このルーブリックを基に毎回振り返りを行った。

【児童と共同作成したルーブリック】

	質問	気持ち・感想・理由	あいづち・リアクション
A	相手へ質問を2回できる	気持ち・感想・理由を2回話し、会話をつなぐことができる	あいづちやリアクションを取り、意欲的に会話をしようとしている。(あいづち、リアクション2回できる)
B	相手へ質問を1回できる	気持ち・感想・理由を1回話し、会話をつなぐことができる	あいづちやリアクションを取り、会話をしようとしている。(あいづち、リアクション1回できる)
C	相手に質問をすることができない	気持ち・感想・理由を話せず、会話をつなげない	あいづちやリアクションを取りながら会話をしようとしていない。(あいづち、リアクションができない)

② やり取りを続けるための表現の気付き（２時間目）

単元のテーマでもある思い出の行事について現在知っている表現を使って ALT との会話をしている様子を撮影した。その後、撮影した動画を自分で確認し、やり取りが十分でないところを確認させた。やり取りを続けるにはどんな表現を言うことができればよかったかを考え、書き出した。その際 ALT や担任と日本語から英語に直した。



【ALT との会話の様子】

個人で必要な表現を考えた後、どんな表現が出てきたのか全体で共有をし、“What ~ do you like?”など汎用性のある表現については、単語を入れ替えるといろいろなことが質問できるようになることを確認した。また、より自然な会話をするためにあいづちや相手の言っていることに対して、反応ができると良いことを再度確認した。

〈児童から出てきた表現〉
・What did you ~? ・What was fun?
・What was hard? ・Why?
・What other ~ do you like?
・What ~ do you like? ・Do you like~? 等

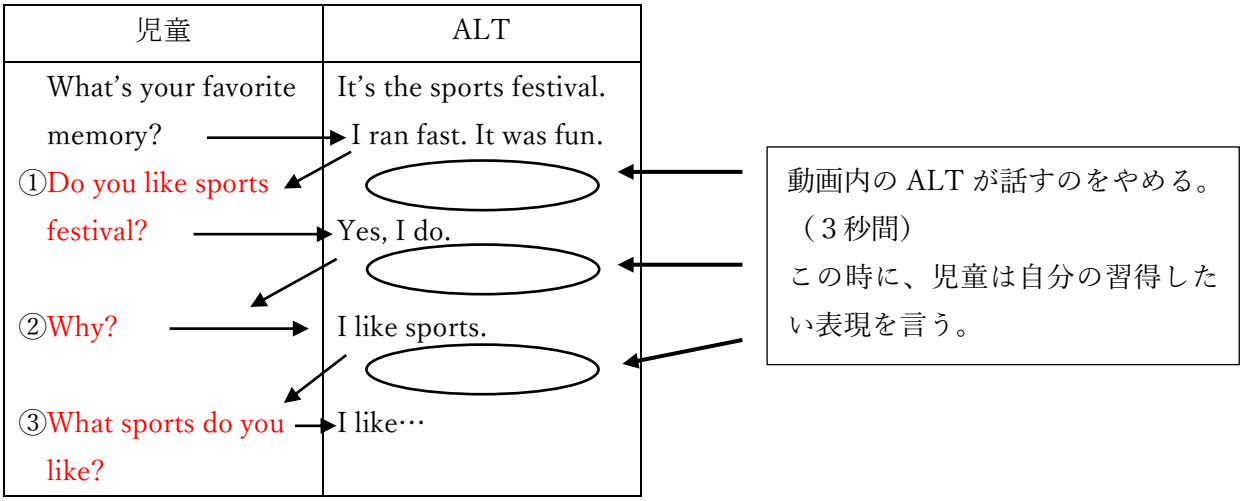
<授業初めの small talk で毎回確認しているあいづち・質問一覧>
・That’s good.・I see・Me, too. ・Really?
・I think so too. ・I got it. ・Well… ・When?
・How about you? ・Why? ・Where?
・What time? ・What ~ do you like?
・What else? ・Pardon? 等

③ やり取りを続けるための表現の練習（３～７時間目）

やり取りに必要な表現を１人で口頭練習して獲得できるように、担任と ALT が打合せを行った上で ALT が撮影した動画を児童に配信した。３時間目にこの動画を使った練習について説明を行い、実際に練習を始めた。慣れない活動に戸惑う児童もいたが、慣れてくると、表現の獲得に向けて動画を巻き戻し、ALT の話す英語をよく聞いて繰り返し練習する姿も見られた。また、獲得したい表現だけでなくあいづちやリアクションを入れる児童もいた。その児童の練習の様子を全体に共有し、実際の会話に近い形で練習ができると良いことを全体に確認した。４時間目以降は、個人での練習をした後、ペアで会話の練習を行い、表現を実際の会話の中で練習をした。



【ALT の動画を見て、練習する児童の姿】



【配信した動画の内容（赤字は児童が獲得したいと思っている表現）】

④ SEA３名との交流会（８時間目）

単元のゴールである SEA との交流を行った。知っている英語で会話をしようとする姿が見られ、楽しんでいる様子が多かった。自分の練習してきた表現を話そうとしたり、SEA の話す英語にあいづちやリアクションをしたりする姿も見られた。特に、理解を示す“I see.”や相手の言ったことを確認する繰り返しなどが見られた。また、英語で言う方法が分からない時には、ジェスチャーを使って SEA に伝えようとしたり、近くにいる指導者に聞いたりするなど意欲的にやり取りをしている様子が見られた。

（４）考察

２時間目の ALT との会話において、A 児は、自分の思い出の行事は言うことができ、ALT の“Was it fun?”という問いかけにも時制は間違っているが、“It's fun.”と答えることができていた。しかし、児童から質問をして、ALT が思い出の行事を答えた後、少し間があり、何と言ってやり取りを続ければよいのか分からない様子で“Why?”とだけ質問をしていたり、あいづちを打ったりしている様子がなかった。

８時間目の SEA との会話では、やり取りを続けるために自分が獲得した“What ~ do you like?”を使ってやり取りを続けようとしたり“I see.”という表現を用いて、相手の言っていることに対してあいづちやリアクションをしていた。また、修学旅行についての話題の中で、“Was the castle cool?”と聞かれた時は、“Oh, yes. So big.”と具体的に感想を話すことができた。

２時間目　ALT とのやり取り	８時間目　SEA とのやり取り
ALT：What's your favorite memory? C　：It's the school trip. I made Akabeko. The Tsurugajyo castle was beautiful. ALT：Was it fun? C　：It's fun. What's your favorite memory? ALT：It's the sports festival. We ran fast. It was exciting. C　：（数秒、間が空く）Why? やばい…	C　：What's favorite memory? SEA：My favorite memory is the sports festival. C　：What's sports festival do you like? SEA: I like Running, throwing and making new friends. C　：Oh, I see. SEA: What's your favorite memory? C　：Ah…school trip. SEA：Where did you go? C　：Aizu, Fukushima. SEA：What did you see? C　：Tsurugajo castle. SEA: Was the castle pretty? Was the castle cool? C　：Oh, yes. So big. SEA：Oh, very big! Wow! I want to see.

【ALT とのやり取りと SEA とのやり取りにおける発話記録（原文のまま)】　※C：抽出児童（A 児）

4　成果と課題

(1)実践の成果

・やり取りを続けることを目的とした表現の獲得の支援

児童一人ひとりの獲得したい表現に合わせた動画を撮影して配信することで、個人のペースで練習することができた。ペアでの small talk では、実際の会話を繰り返し行うことで、表現やあいづち・リアクションの確実な定着につながった。

・児童と作るルーブリックの設定

児童とルーブリックを作成し、目標を明確にすることで、目指すべき姿が分かり、意欲的なやり取りに取り組むことができた。実践後は多くの児童が実践前よりも高い自己評価をした。

		２時間目	８時間目
質問		A　33%	A　67%
		B　50%	B　33%
		C　17%	C　0%
気持ち・感想・理由		A　17%	A　67%
		B　67%	B　33%
		C　16%	C　0%
あいづち		A　0%	A　50%
		B　67%	B　50%
		C　13%	C　0%

【ルーブリックを基にした児童の自己評価の変容】

(2)実践の課題

・場面によって表現を使い分ける難しさ

SEA との会話の中で、練習してきた内容であれば、話すことができた。一方、ALT との会話と内容が異なる場合には、会話の流れを捉え、その場に応じて自分の表現をどのように工夫して話すか考える必要がある。授業の際に汎用性の高い表現については確認をしたが、上手く使える児童は少なかった。聞くことに精一杯で児童自身からやり取りを広げたり、自分の言いたかった表現を言えずに終わってしまったりした児童もいた。相手の言っていることが分からなかった場合や間を埋める“Pardon?”や“Well…”のような聞き返しやつなぎ言葉を言うことができなかった。

・ルーブリックによる自己評価の甘さ

評価項目に質問やあいづちの回数などを取り入れたことで児童にとって自己評価は容易だったと考えられる。しかし、児童によってどの程度を１回と数えるかが曖昧になっていた。そのために、会話の内容としては深いものにならなかった。自己評価だけでなく他者からの評価を取り入れることが重要である。

5　参考文献

・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編」